GSM Newsletter

vol.2 / 2022.1

特集 在校生の声

GSM Topics

退職に寄せて・後期授業レポート

イベントレポート

京都大学経営管理大学院
Graduate School of Management, Kyoto University

特集 | Current Voices

経営管理大学院では、世界各国からの留学生や
多くの社会人学生が互いに切磋琢磨しながら
それぞれの学びを深めています。
本大学院生７名の「在校生の声」を
お届けいたします。

Tony Ling さん（香港）
京都大学 - コーネル大学 国際連携コース
１回生（2021- ）

GSM を選んだ理由 と GSM の魅力

Prior to the Kyoto-Cornell International Collaborative Degree Opportunity (KC-CDO), I had the privilege to have worked with more than ten international companies across Healthcare, Industrial, TMT, Consumer and Services sectors for eight years being a global private equity executive.

With a passion in business and hospitality as well as to potentially starting my own business in Japan, I seek to equip myself with more operational knowledge for my future careers. The Graduate School of Management (GSM) of Kyoto University was an obvious choice for me with its KC-CDO program which combines the merits of both a Master of Business Administration (MBA) degree at Kyoto University and a Master of Management in Hospitality (MMH) degree at Cornell University.

Kyoto is a city renowned for its traditional heritage and Kyoto University is where the traditions and innovations intersect. Specifically, GSM has a wealth of resources from top business researchers and practitioners internationally in strategic management, services and hospitality, leadership development, finance and accounting, human resource management and entrepreneurship.

将来の展望

I have a lifelong passion in wine, coffee, tea and other fine beverages. I fully embrace travel as a lifestyle and enjoy meeting and working with people from different cultures, and as such developed a passion for the Hospitality sector.

I would like to explore opportunities in crafting the best hospitality experience and starting my own business in Japan. To this end, I appreciate the opportunity to learn from global thought leaders in the industry and putting theories into practice.

入学希望者へのメッセージ

GSM of the Kyoto University offers both the depth of courses and breadth of various programs that suit the needs for aspiring international managers and entrepreneurs. Specifically, KC-CDO is a unique program offering the rare opportunity to study in two top universities in Japan and the United States.

If you are looking for a highly engaging learning environment with a multi-cultural community of students and faculty members and want to work with the top minds in the industry, then this is the right program for you.

数字で見る GSM

留学生比率
42%

留学生の割合はとても高く
ボーダーレスマインドな
学びの環境があります。

社会人学生比率
71%

未来を見据えてキャリアアップの
ために入学する社会人や社会人
経験がある方がたくさんいます。

女性学生比率
38%

留学生や国内学生ともに
女性学生の割合は高く
女性の活躍がますます
期待されています。

本田 路子 さん
サービス＆ホスピタリティプログラム 2 回生（2019- 長期履修生 ）

1 週間のスケジュール

<1 年目の後期 >
土：東京駅→京都駅（新幹線）
　　10：30 ～ 18：00　講義
日：課題、グループワーク討議、
　　レポート作成、、業務対応
月：午前中 リモートワーク
　　13：00 ～ 18：00　講義
火：10：30 ～ 14：30　講義
　　京都駅→東京駅（新幹線）
水～金：東京にて通常勤務

GSM を選んだ理由

「京大とは、自由さと基礎研究重視の校風があり、How to（うまくいくやり方）ではなく What to（何をなすべきか）を学ぶ場所である」という小林潔司教授（元経営管理大学院長）のお話を聞き、進学を決めました。ビジネススクールは沢山あれど、会社を円滑に回すためのツールとしての知識を得ても、本当の課題解決は難しい。表層的な議論ではなく、真理を追究する姿勢が必要だと思います。特に私が 15 年以上従事しているホテル業界には、おもてなしやサービスという基本的な言葉についての定義がまだ無く、より根本的な議論が求められる分野です。この「サービス」のコースが設けられていることも京大を選択した理由の一つです。仕事と勉学を両立するため、通常 2 年の履修内容を 4 年で修める長期履修制度を申請しました。東京から通学しています。

将来の展望

ホテルサービス業界での 15 年間の実務経験で得た知見を、経営学的、社会学的に読み解き、整理することで、業界に貢献したいと思っています。日本のサービス業は生産性が低いと言われますが、学術的知見が無い状態で判断すると、その解決のために削ってはいけないコストを削り、結果的に企業の力を弱めてしまうケースがあることを知りました。人的サービス業は個々の従業員や組織体に蓄積された暗黙知が多く、それが強みでもあり弱みでもある。京大大学院で学ぶ中で、What to：何をなすべきか、すなわち結局何をマネジメントしなければならないのか、という視点を得られつつあるように感じています。

入学希望者へのメッセージ

自分次第でいくらでも深く、広く学べる場所です。経営管理を学ぶので、少しでも社会人経験があった方が、学問をよりリアルに体得できると思いますが、社会人未経験者でも、同窓生に経験者がたくさん在籍しているので、実践エピソードは豊富に得られます。大切なことは、知的欲求の赴くまま、あるいは、自分が従事している仕事をより充実させるために、どれだけ貪欲になれるかということだと思います。それがあれば、とても充実した 2 年間になると思います。

森 貴志 さん
プロジェクト・オペレーションズ
マネジメントプログラム 2 回生（2020- ）

GSM を選んだ理由 と GSM の魅力

入学を考える際には、海外の開発分野に関わる仕事に就きたいと考えており、組織やプロジェクトをマネジメントするために必要な分析力、判断力、さまざまなステークホルダーとのかかわり方について学びたいと考えていました。GSM には国際的感覚を持ったプロジェクトマネージャーの育成を目的としたプロジェクト・オペレーションズマネジメントコースがあり、関連する科目に加え、英語で行われる授業などもあったことから入学することにしました。

科目は、理論的なものから、実務的な内容のものまで、様々な分野の科目が揃っています。M1 の前期は、基礎科目が中心でコースごとに必要となる理論的基礎を養うことが求められます。後期以降は自分のニーズや興味に合わせ、自由に科目を組み合わせることができます。

先生方はアカデミックや実務の分野で経験豊かな方が多く、学生も様々な職種、年代、国籍によって構成されています。多くの授業では、グループワークやディスカッションを行う機会があり、こうした方々と議論を重ねることで、新たな気づきや刺激を得ることができます。

将来の展望

入学前は青年海外協力隊に参加していたことから、卒業後は開発分野等のプロジェクトに携わり社会をよりよくできるような仕事に携わりたいと考えています。そのため GSM では、ファイナンス、会計、統計分析などの理論を深め実践で使えるようにしていきたいと考えています。

入学希望者へのメッセージ

京都大学ならびに GSM には、豊富なリソースが揃っています。問題意識や学習意欲を持った方には、自らの知識を深めるため充実した 2 年間を過ごせる場所だと思います。

1 日のスケジュール

オンライン授業が多いですが、
対面授業が一部再開されています。
< 授業がある日の例 >
08：30 ～　朝食・家事
10：30 ～　授業・課題など
18：00 ～　夕食・自由時間
21：00 ～　グループ発表の
　　打ち合わせ（Zoom）
22：00 ～ 25：00　課題

Baigalimaa Turmunkh さん（モンゴル）
i-PM 国際プログラム 1 回生（2021-）

GSM を選んだ理由 と GSM の魅力

After graduating, I have worked as a structural engineer in the construction industry in my country. While working, I saw the demand for proficient and effective project managers who have both technical and soft skills, in the field. And I decided to prepare myself for the role and learn management skills at the academic level. I believe that I have solid technical skills, but, I need to improve my soft skills. That' s why I chose to apply for the MBA program at GSM.

The MBA programs at GSM provide a wide range of curriculum and give students the flexibility to choose the subjects to study. In addition, the professors at GSM and guest lecturers are from diverse professional backgrounds and highly specialized in their respective fields. It would be such an opportunity for the students to learn from these distinguished professors and industry leaders.

将来の展望

I would actively challenge myself in the engineering field and get the necessary qualifications to become a consulting engineer to be able to establish a consulting company in the long run. There are only a handful of local companies in my country that can do both design and construction management. So my company will offer full consulting services to clients on both design and construction and successfully manage international projects to completion. I also want to hire young architects, engineers, and managers and guide them to a clearer path to success for the purpose of giving back to the community.

入学希望者へのメッセージ

I would like to encourage professionals from any background to apply to GSM. This is a great opportunity to get a business degree at one of the best universities in the World.

You would also get to experience the wonderful culture of Japan in the best possible way. Kyoto city, the old capital of Japan, is rich in historical and cultural sights, beautiful temples and shrines and close to nature. So there would be countless activities you can do in your leisure time alongside your studies like hanging out with friends at Kamo river or hiking in the mountains at Daimonji.

鎌田 直美 さん
観光経営科学コース
2 回生（2020-）

1 週間のスケジュール

＜1 回生 後期＞
月：3 限目授業
火：課題対応、ウェビナー視聴
水：2・3・6・7 限目授業
木：5・6 限目授業
金：3 限目授業
土日：課題対応、グループワーク、京都散策など
※授業はすべてオンライン形式

GSM を選んだ理由

私は大学卒業後、旅行会社に入社し、旅行手配、販売、企画、添乗など幅広く実務経験を積んできました。沖縄勤務を経て、東京に戻ってからは役員として人的資源やコンプライアンス関連のマネジメントに携わる一方、業界団体の各種委員や業界誌の連載執筆、研修講師など対外的な仕事も増え、自分の知識や思考力をもう一段引き上げたいと感じていました。

そして、夜間東洋大学や早稲田大学の観光人材育成講座に通い、よき仲間や先生方と出会う中で大学院進学の意思を固めていきました。“観光MBA”（略称）は憧れの場でしたし、京都の文化を肌で感じながら学ぶという経験は人生の幅と深みを増してくれるだろうと考え受験しました。入学にあたり会社を退職し学業に専念しています。

GSM の魅力

“自由の学風”といわれる京大らしく、開講科目や学生のバックグラウンドが多様で、おおらかなところです。学部や他大学院の授業を履修できる制度もあり、私も神戸大学の授業を受けるのを楽しみにしています。観光経営科学コースは私で 3 期目と新しく少人数のため、タテヨコのつながりがあり、ほぼオンラインでの交流ながら和気あいあいとしています。経営学を礎に観光を考えるところが特徴で、集大成となる個人研究では近年注目されているエフェクチュエーションの論理をもとに観光事例研究を行います。若林靖永先生の丁寧なご指導の下、中間報告会で本コースの最優秀賞をいただいたことは大きな励みになっています。

入学希望者へのメッセージ

仕事や家庭のことなど人それぞれの状況があると思いますが、私の場合、根っこにあった「学びたい」「京都に住んでみたい」そんなシンプルな理由が今に残り活きています。京都や近隣のまちに出て観光やサービスの事象を見聞き、体験し、理論に照らして考察するのはとても楽しく充実した時間です。また、インプットだけでなくレポートやプレゼンなどアウトプットの鍛錬を積むことも大学院ならではの機会です。

今実感するのは、大学院は「学び直し」というより「学びの進化」の場だということ。チャレンジの先に、自分なりの成長があると思います。

冨谷 英人 さん
ファイナンス・会計プログラム（1 年半コース）2 回生（2020-）

GSM を選んだ理由 と GSM の魅力

私は企業に在籍したままでの GSM 進学となっております。勤務先での業務（投資運用業）でより良い成果を出すため、最新の理論と実務を、この GSM で学びたいと考えました。
非常に幅広い内容の学習を、ある科目では聴講・読書中心に受動的に、ある科目ではグループワーク・ディスカッション中心に能動的に、学ぶことができます。講義の内容は幅広く、理論を極めた大学の先生から学ぶこともできますし、実務の最先端を担う実務家の先生から学ぶこともできます。英語での授業も多く選択でき、海外の学生も多いことから、国内にいながら海外留学しているように感じたこともあります。

将来の展望

GSM で学んだ内容を、会社での実務に活かしていきたいと思います。実務で何となく使っていても、理論的背景をきっちりと知らないことは多かったです。卒業後は、GSM で学んだことを活かし、より精度が高く、深くまで考えぬいた業務を行っていきたいです。
また、ファイナンス・会計・バリエーション・M&A・コーポレートガバナンス・会社法・最適化・統計・Python・マーケティング・英語・・・と、非常に幅広い内容を学ぶことができているので、それらの組み合わせによる相乗効果も出していきたいです。

1 日のスケジュール

ほとんどオンライン授業となり、時間を有効につかえるというメリットも生じました。私は、浮いた時間で、会社の業務のほかに、米国公認会計士の勉強も平行して行っています。
＜1 回生 後期 金曜日＞
09：00 ～ 10：30　予習、宿題
10：30 ～ 12：00　講義
13：00 ～ 14：30　講義
16：00 ～ 17：30　会社会議
18：00 ～ 21：00　米国公認会計士勉強

Olzhas ABDESHOV さん（カザフスタン）
i-BA 国際プログラム 1 回生（2021-）

入学希望者へのメッセージ

Kyoto is the perfect place to live, and GSM is the perfect place to study. No matter what your goal is for applying to GSM: whether it is networking with Japanese business people or international professionals from all over the world, or improve your hard skills, or even start your startup as a student, GSM provides every opportunity to achieve any of them.

GSM を選んだ理由

I have considered several MBA programs in Japan and had unconditional acceptance from Hitotsubashi University Business School and Waseda Business school. However, I decided that i-BA program at GSM would suit best for me, mainly because of the large number of faculty members engaged in innovations and technology. I believed that I could learn a lot from these dedicated scholars in lectures and the best real-world practitioners of Japan in specialized business practices.

将来の展望

I believe that university students should not look for jobs after graduation. Instead, people with higher education themselves must create jobs for those who do not have the opportunity to receive such an education. On top of that, people with excellent higher education, provided by the best schools like GSM, should not be limited to creating jobs but go further to change the world for the better. That is why I am currently actively studying social entrepreneurship and want to make the Earth a better place to live.

1 日のスケジュール

- Morning exercise or jogging
- Class at GSM
- Reading some news about Kazakhstan and Japan
- Chatting with friends about daily hot topics
- Reading class books and doing research

Message

退職に寄せて

教授　若林 靖永
2022.3　退職予定

1994 年に京都大学経済学部助教授として採用され、2003 年に同大学院経済学研究科教授、そしてなんといっても 2006 年の経営管理大学院開設に伴い、経営管理大学院教授に就任し、京都大学教員として 28 年間が経ちました。そのうちのおよそ半分、16 年間、経営管理大学院の歴史とともにすごしたことになります。

新しい大学院を設立するというのは希有な挑戦であり、同僚とともに新たな制度を作り、新たな学生を迎えて授業を行うことはとても刺激的であり、新たな社会的役割を探求することであり、創造的な営みでした。日本でビジネススクール（京大ではマネジメントスクールと言っています）をつくるということは、アメリカとは大きく異なり、日本の雇用システム、キャリア制度に制度化されていないために、大きな困難に直面しています。また、当時、新たに制度化された高度専門職業人養成を目的とした専門職大学院の枠組みで新大学院の設置に取り組むことになりました。経営管理大学院長として、10 周年記念事業を担当したのですが、その際にも、本大学院自身の営みがアントレプレナー、起業であり、革新と挑戦の連続であったと講演しました。これは今も変わりませんし、これからもそうあるべきだと強く思います。

開設時から担当してきた基礎科目「マーケティング」では、講義は行わず、毎回、学生に教科書の演習課題に対するレポート課題を提出・発表してもらい、それに質疑するという対話型の授業を行ってきました。卒業生からは今でも「先生から質問されることは緊張し、とても厳しい授業だった」「論理的な思考を強く要求された」などと思い出されるのは「誇り」です（笑）。

大学院長の際には、10 周年を迎えた本大学院が直面した諸課題等を統合して、新たな挑戦として「i-GSM」構想を打ち出し、文部科学省や大学本部に対しての提案説明をすすめました。この概算要求を伴う教育研究組織の改編については、原良憲 次期院長に引き継がれ、コーネル大学とのダブルディグリープログラムや国際コース（i-BA、i-PM）、観光 MBA コースなどを開設し、その後、さらに国際認証 EQUIS 取得に向けた取組につながっています。

附属経営研究センター長としてさまざまな地域等との連携をすすめ、その 1 つとして熊本県天草市との連携協定にもとづいて 10 回にわたって天草宝島起業塾、そして同高校生コースを開催し、講師として取り組みました。また、京都ものづくりバレー構想の研究と推進（JOHNAN）寄附講座を開設し、京都でのものづくり、起業のエコシステムをつくっていく取組を関係者とともにすすめてきました。6 社との産学共同講座として情報学ビジネス実践講座を開設し、ビジネスに活用する IT リテラシー教育として全学部、全大学院向けに 3 つのコース、授業科目の新設提供をすすめてきました。経営管理大学院では、寄附講座、共同研究、受託事業など、地域や企業との連携を通じて教育・研究・社会貢献をさまざまに展開し、いろいろな人と出会い、協力し、新たな事業を企画推進してきました。

ふりかえって思うことは、経営管理大学院をつくって本当に良かったということです。日本で、また京都大学で経営管理大学院をつくり持続的に運営していくことは困難なことですが、挑戦するだけの価値があります。多くの希望と挑戦する意志を持つ社会人学生（新卒学生も）と新しい大学院での教育研究等にビジョンと情熱を持つ教員とが集い、変えなければならないマネジメントのこと、これからのビジネスのこと、などなどを学び語り合う毎日は楽しいものでした。この機会に学生（卒業生）、教職員のみなさまに感謝の意をお伝えしたいと思います。

Class reports

2022.1.6 後期授業「投資戦略とリスクマネジメント」初の対面講義と写真撮影を行いました

経営管理大学院では、1 月 6 日（木）に実務科目「投資戦略とリスクマネジメント」の対面授業（ディベート）と写真撮影を行いました。
本授業では、投資戦略とリスクマネジメントに関するテーマについて学生同士がディベートを行い、授業で習得した知見・経験を活かして積極的かつ論理的な議論が展開されました。本科目は昨年 10 月に新設開講し、当初は新型コロナ感染防止対策によりオンライン授業でしたが、その後京都大学の対面講義方針に基づきハイブリッド授業、対面授業へ移行しました。当大学院では久々の完全対面講義となったため、広報活動を兼ねて写真撮影も行いました。学生達が対面でのディベートを楽しみ、生き生きした姿が感じられます。

経営管理大学院 2 年
小島有貴 さん

＼履修生の声／

秋学期の本授業は、コロナ禍に入学した私にとって MBA 初めての対面での授業となり、非常に新鮮かつ刺激的な授業でした。少人数授業であったことから、気軽に質問できる環境やディスカッションの場を設けていただき、オンラインでは得られない密度の濃い学びの時を過ごすことができました。

ディベート授業の様子（下写真中央が村上啓二 特定准教授）
写真撮影時のみマスクを外しています

【主催イベント】2021.12.20 世代・トレンド評論家の牛窪 恵 氏による オンライン講演「Z 世代の“ライフ＆ワークバランス”」を開催しました

経営管理大学院 京都ものづくりバレー構想の研究と推進（JOHNAN）講座では、「100 年続くベンチャーが生まれ育つ都研究会事業」を立ち上げ、月に一回、各界の著名人を招いた講演会を開催し、「100 年続くベンチャーが生まれ育つ京都になるための必要十分条件」について研究しています。

12 月の研究会では、世代・トレンド評論家の牛窪恵 氏に「Z 世代の “ライフ＆ワークバランス”」というテーマでご講演いただき、その後、当研究会のメンバーとのパネルディスカッションを行いました。

ご講演では日本の「世代」についての概観と、Z 世代（1990 年代半ば～2000 年代前半生まれ）を中心とした若者世代から一体何を学ぶことができるのか、コロナ禍を経た世界と Z 世代の価値観との共通点も明らかにしながら、これからの生き方の指針を示していただきました。後半のパネルディスカッションでは視聴者からの感想や質問にも答えていただきながら、オンラインが当たり前になった今だからこそ、「つながる」という部分に注目し、若者だからこそ持つポテンシャルの高さをどのように活かしていくかについて議論を行いました。

オンラインセミナーの様子（牛窪恵 氏）

京都ものづくりバレー構想の研究と推進（JOHNAN）講座
100 年続くベンチャーが生まれ育つ都研究会事業
https://kmv.kyoto/ecosystem/

【共催イベント】2021.12.1「第 2 回スタジオリフレクション」村口 和孝 氏の講演と対談を開催しました

経営管理大学院は、「第 2 回スタジオリフレクション」を 2021 年 12 月 1 日に Impact Hub Kyoto（京都市上京区）で開催致しました。スタジオリフレクションは、スタジオリフレクション主催、経営管理大学院と Impact Hub Kyoto 共催の対話型イベントになります。

本イベントでは、伊藤智明 氏（本大学院特定助教）が聞き手を担当し、「ベンチャー・キャピタリストの目：村口和孝のつくり方」をテーマに、村口和孝 氏（日本テクノロジーベンチャーパートナーズ代表取締役）にこれまでのベンチャー・キャピタリストとしての経験と知見をお話いただきました。イベント後半では、本大学院生から投げかけられた起業についての悩みに対し、どのような判断基準や進め方が必要になるかの助言がありました。

終了後のスタジオリフレクション恒例のゲストによる座右の銘の色紙書きでは、村口氏には「膠着への気付きと未来への商品への Partner 先行投資！！」と書いていただきました。また、村口氏の発案で宇宙にいるイメージで集合写真を撮影しました。独立系ベンチャー・キャピタルの産業を先駆者として開拓してきた村口氏ならではの魅力に溢れたイベントになりました。

第 2 回スタジオリフレクションの様子

イベント後の集合写真（中央が村口和孝 氏）

【教員主催 WS】2021.10.14 妙心寺退蔵院副住職 松山大耕 氏による「Innovative Hospitality Management」特別講演を開催しました

経営管理大学院では、後期開講科目「Innovative Hospitality Management」において、2021 年 10 月 14 日に妙心寺退蔵院（京都市右京区）にて副住職の松山大耕 氏による特別講演を開催いたしました。

“The influence of Zen of Japanese culture and business” をテーマに、禅の歴史と概要の説明とともにそれが日本の文化や経営理念としてどう影響してきたのか、また持続的な社会の実現を目指す現代において、禅の考え方をどう生かすことができるのか等についてお話しいただきました。講演後は、秋めいて涼しくなった夜風や自然の音を感じながら、参加者と座禅体験を行いました。

本イベントは現地参加とオンラインを組み合わせたハイブリット形式で行い、約 40 名の学生が参加し、質疑応答では時間内に全て答えることができないほど、熱心な討議が行われました。

（右）
ご講演中の
松山大耕 氏

（左）
現地参加した
学生の集合写真

インテグレイティド・ホスピタリティ
（グリーンハウス）寄附講座
https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/collaborative-research/ih/
https://www.ih.gsm.kyoto-u.ac.jp/course/

GSM Newsletter vol.2

〈発行〉

2022 年 1 月

京都大学経営管理大学院

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL : 075-753-3410　FAX : 075-753-3529

URL : https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp